

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 広徳 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

広徳 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成25年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成27年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	わずかではあるが、全国平均正答率を下回った。しかし、全体的に基礎的・基本的な力をつけている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題や必要に応じて質問しながら聞き取る問題、目的に応じて要旨を捉える問題は正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	単語の類別理解の問題や伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く問題の正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	わずかではあるが、全国平均正答率を下回った。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	状況に応じて資料を活用して話す問題や目的に応じて文章を要約する問題は、正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	全国的な傾向と同じく、資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題など、書く能力に関する問題の正答率が低い。	

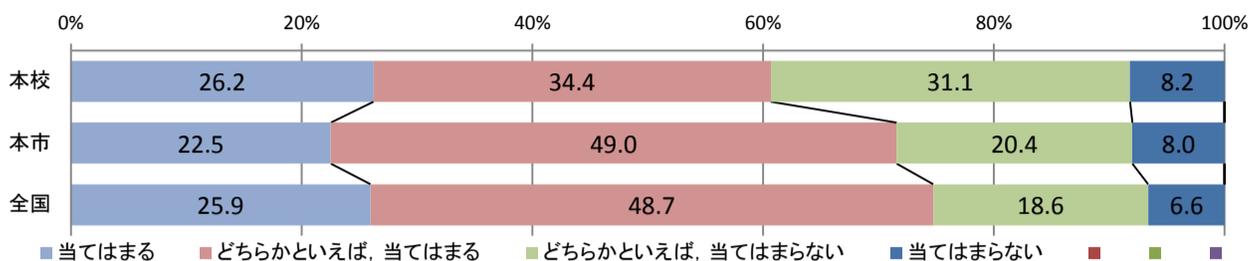
数学A	全体的な傾向や特徴など	わずかではあるが、全国平均正答率を下回った。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	状況に応じて資料を活用して話す問題や目的に応じて文章を要約する問題は、正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	全国的な傾向と同じく、資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題など、書く能力に関する問題の正答率が低い。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	単元を問わず、思考力を要する問題や記述式の問題に対する解答率が低く、正答率も低い。意欲的に課題に取り組む姿勢を身につけさせることが必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	与えられた情報から、必要な情報を選択し、的確に処理する問題	下回っている
	努力が必要な問題	ほとんどの問題で下回っており、特に差が大きい問題は「問題場面における考察の対象を明確にとらえる問題」「証明問題」である。	

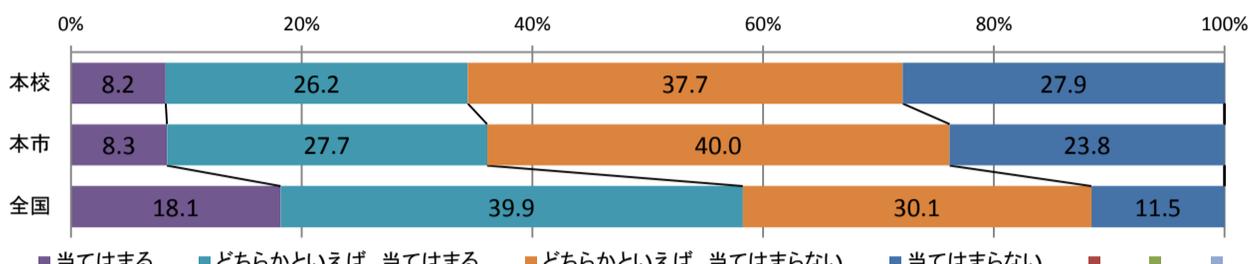
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っているが、科学分野、地学分野では上回る問題もあった。これらは日ごろの授業や定期考査において、記述に重点を置くとともに観察・実験など実習を多く取り入れた成果と考えられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	化学の単元では、決まった濃度の水溶液の水の質量を求める問題や水上置換法で集められる二酸化炭素の量を正確に測れない理由は正答率が高い。また地学分野では、雲の成因や気象観測の記録から最も高い湿度を求める問題	下回っている
	努力が必要な問題	電気の単元では、オームの法則を用いた抵抗値の計算問題	

③ 学校での学習状況に関する調査結果

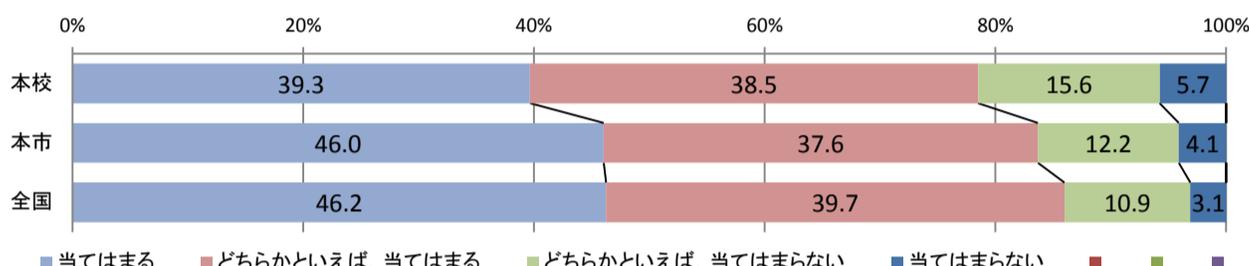
質問番号
質問事項
36
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。



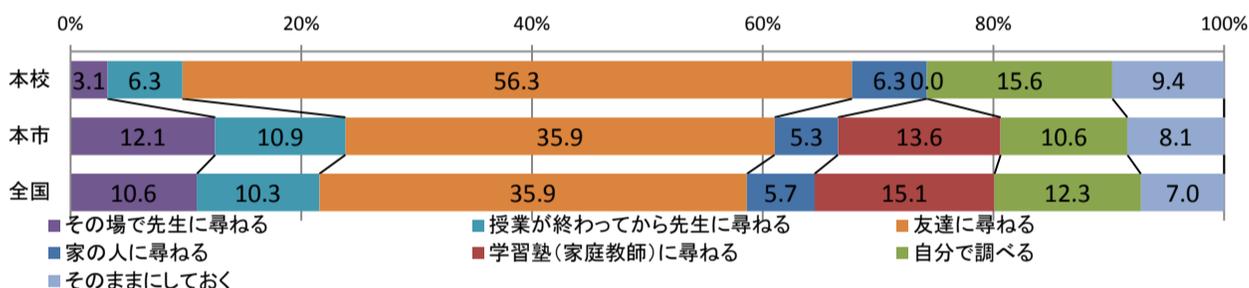
37
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



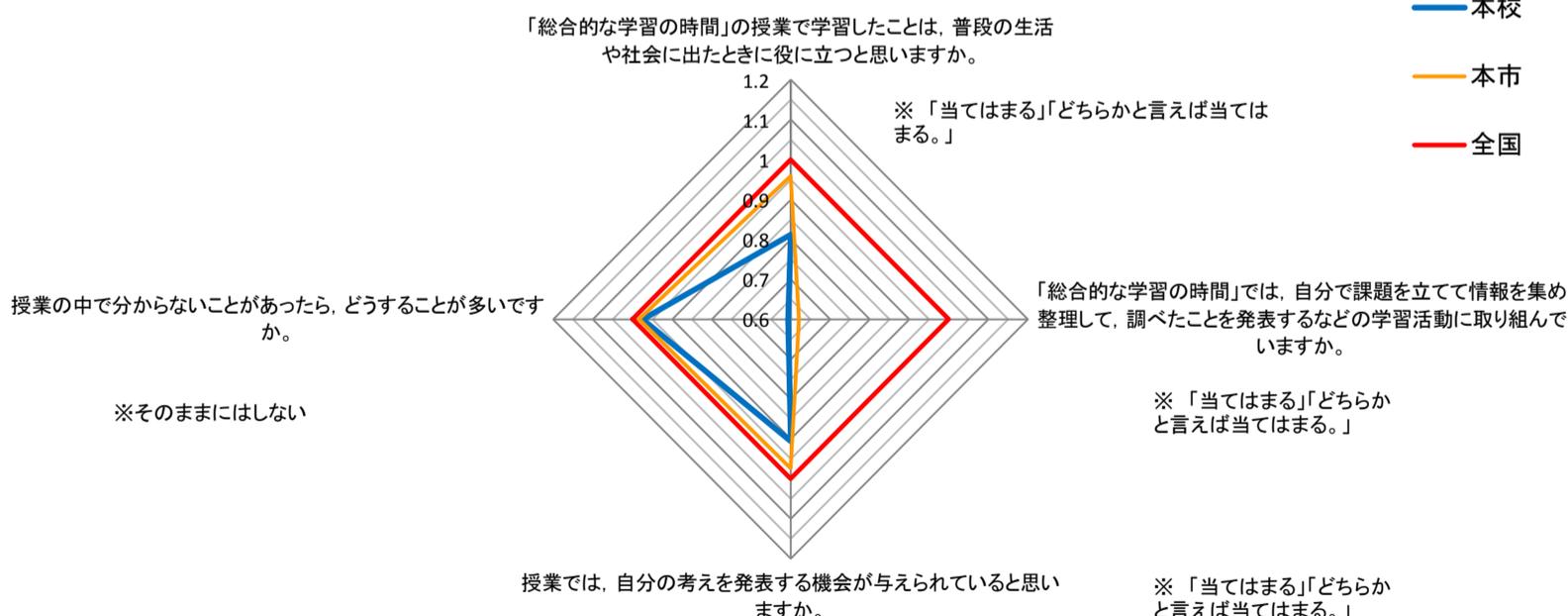
38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

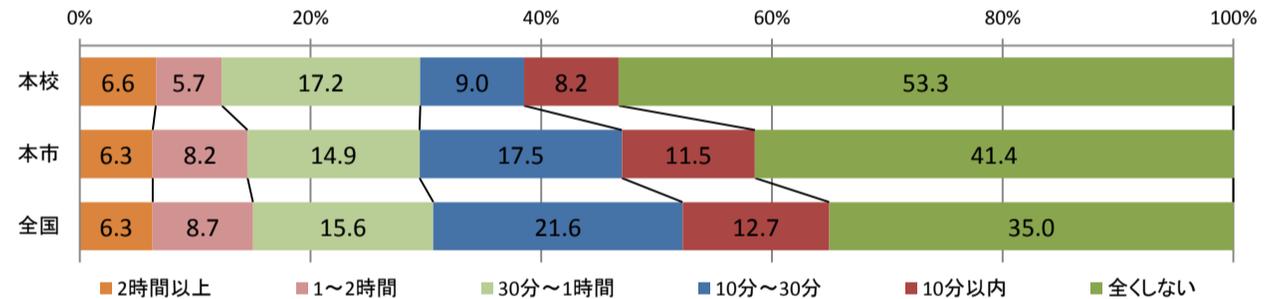
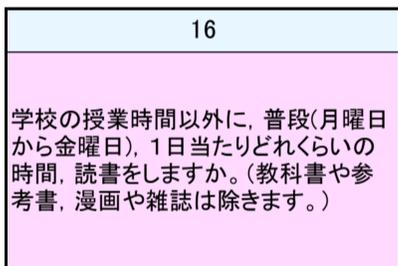
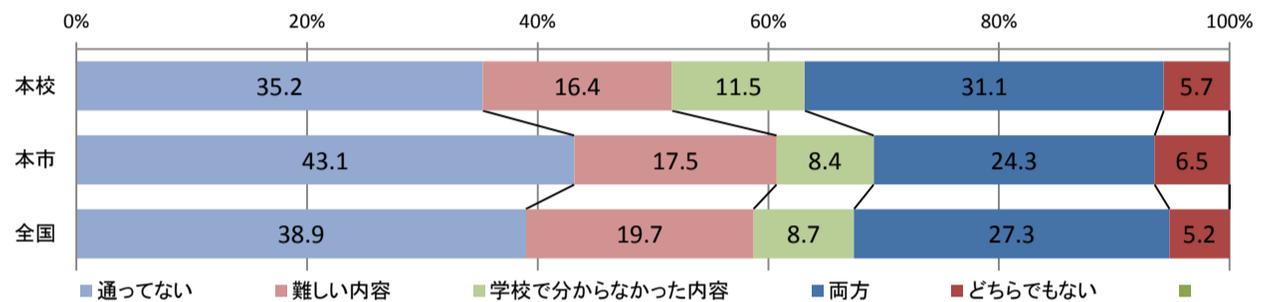
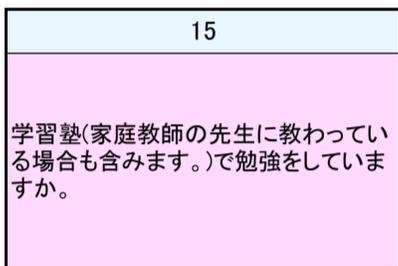
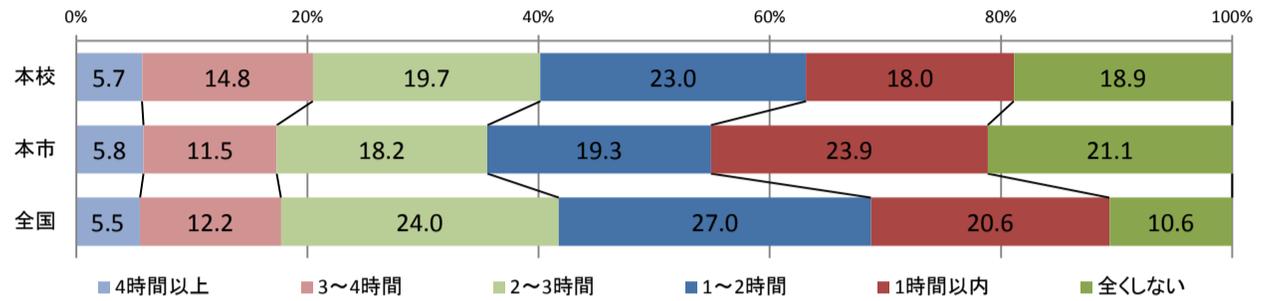
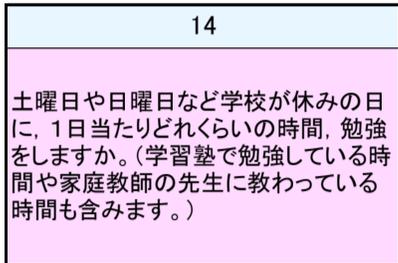
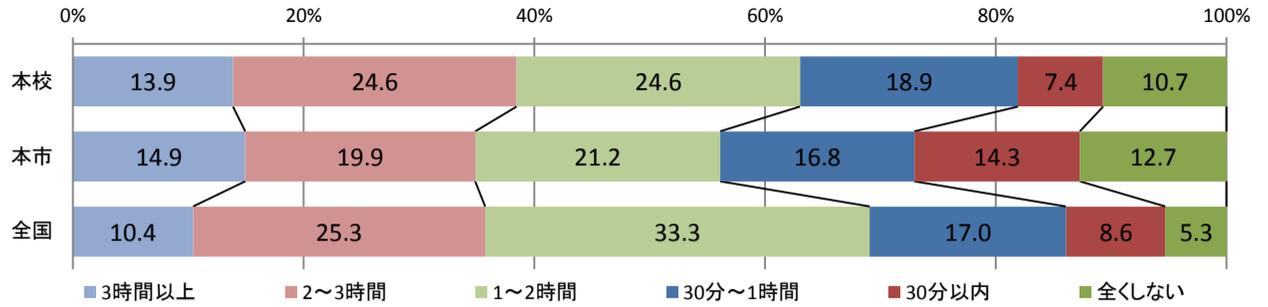
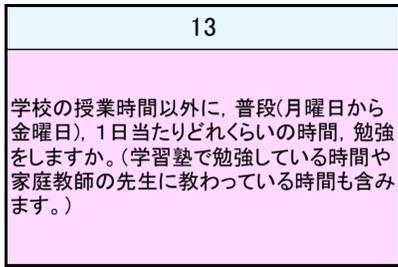


⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

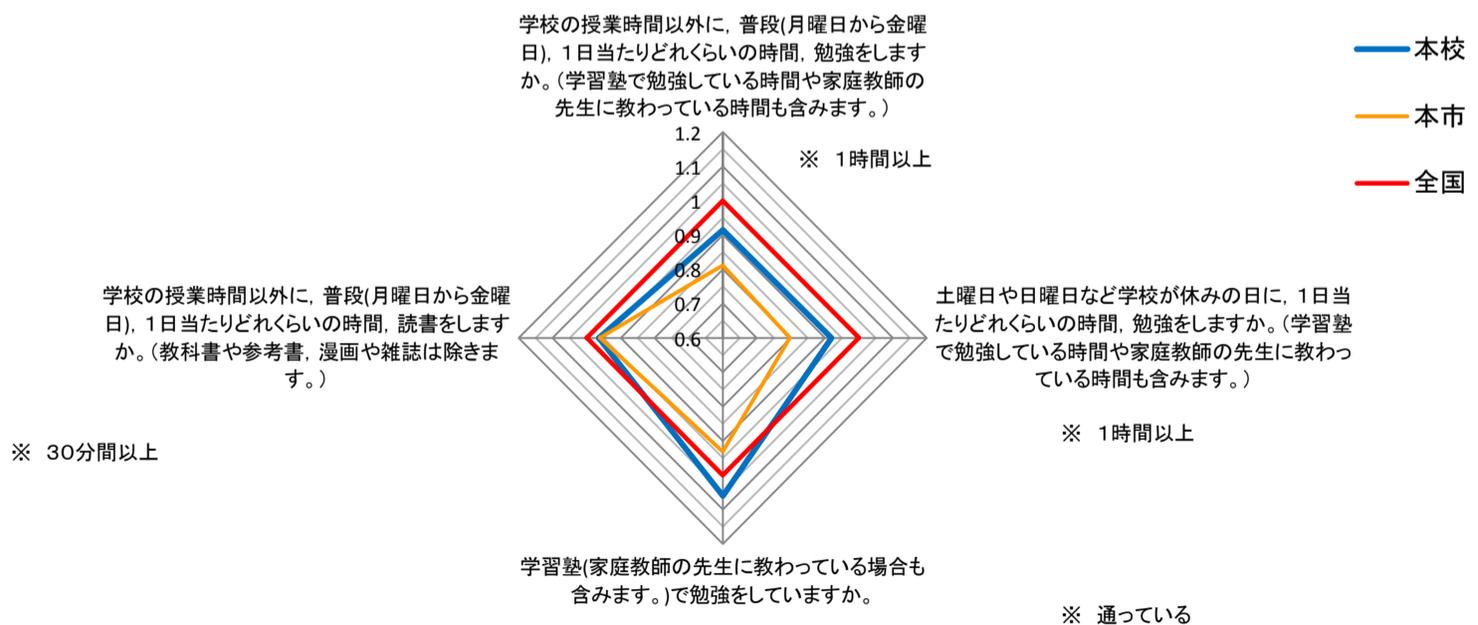
- 「話し合う活動」をよく行ったとする割合は、全国平均に比べ低いものの本校においては年々増加している。特に基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に力を入れている中、話し合い等を通して、思考力や判断力、表現力等の育成にも少しずつ目を向け、取り組むようになった結果であると思われる。
- 本校では、「書く」活動に力点を置いた指導の充実を図っている。その結果、「自分の考えを話したり、書いたりする」の割合が増加し、また「感想文や説明文を書くことは難しい」とする割合が、昨年度よりも減少した。これは、国語のA・B問題の正答率の増加にもつながっている。
- 学習への意欲や態度も、本学年においては年々向上している。現在学習している内容が将来に役立つというポジティブな考え、また自分の将来への関心への高まりも見られる。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

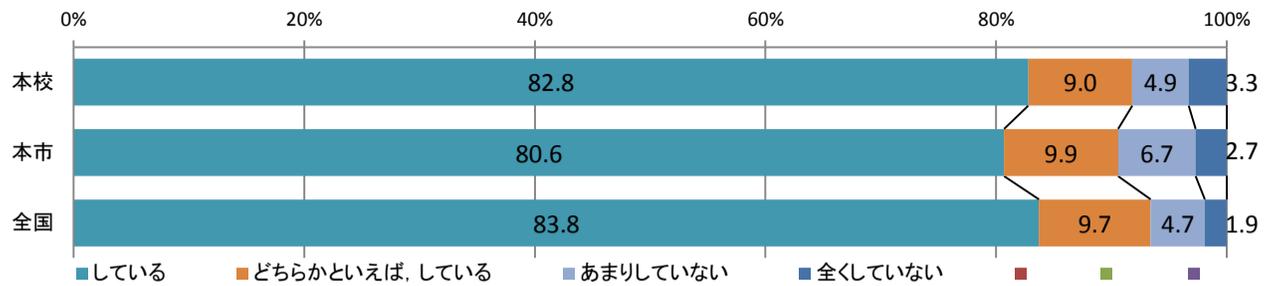


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

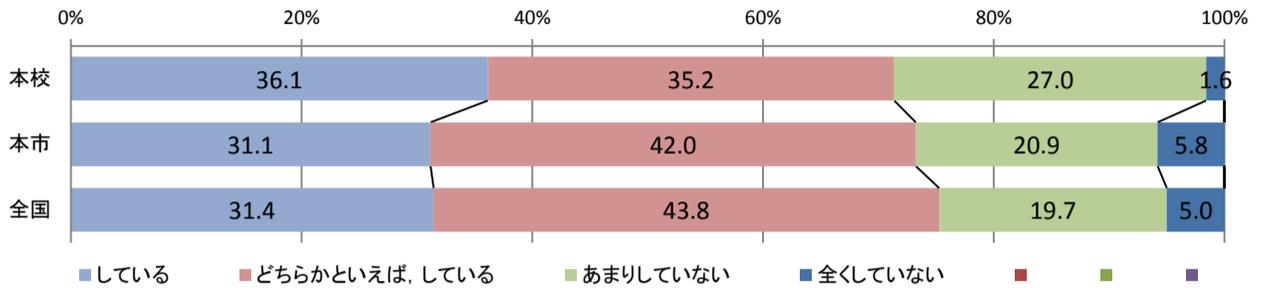
- 「読書の時間」は全国より低く、まったく読書をしない者の割合は、全国より20%以上多い。
- 家庭での学習(2時間以上)は、昨年度より倍増しており、全国より若干低い。読書などを通じた家庭学習は少しずつ増加、定着しつつあるが、依然として学習時間は少ないことがわかる。

④ 生活習慣等に関する調査結果

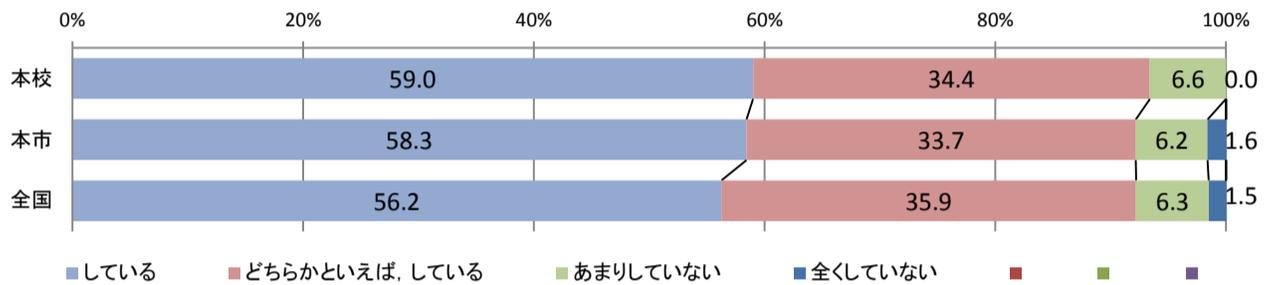
1
朝食を毎日食べていますか。



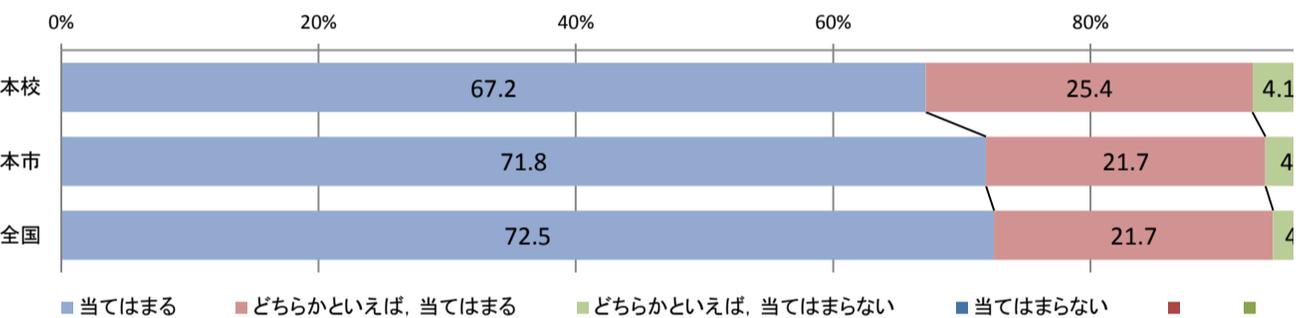
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



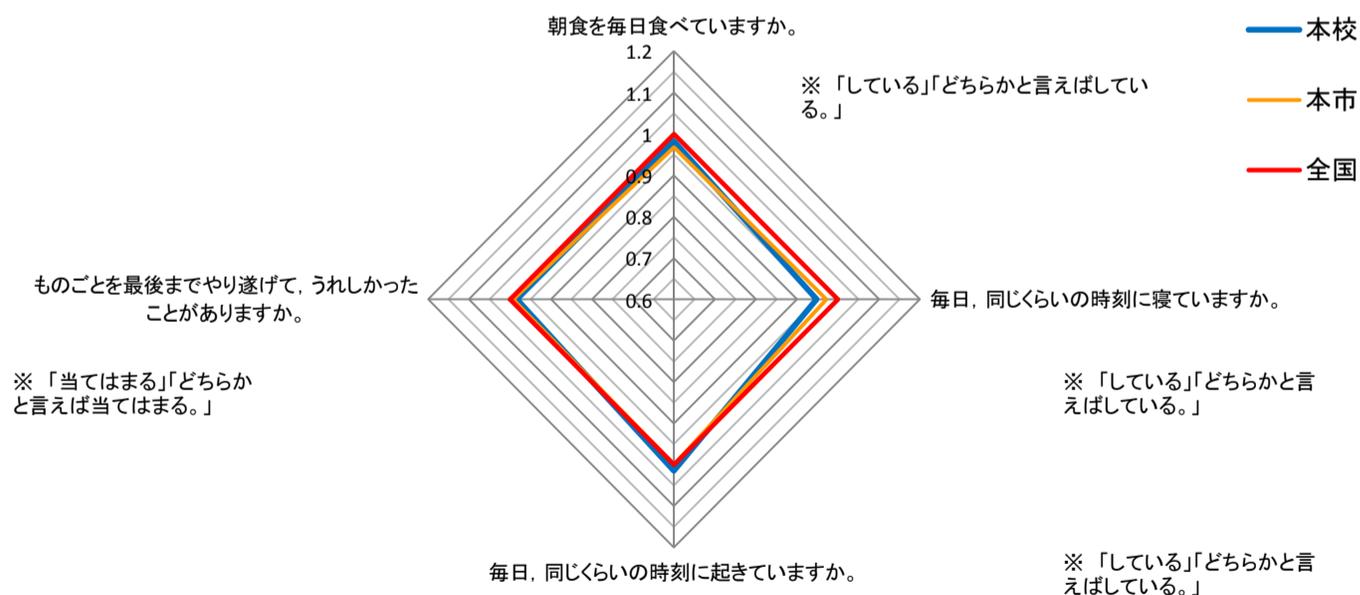
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

○家庭でTVやビデオを2時間以上見ている割合は、全国よりも約7%多い。家庭学習は少しずつ定着しつつあるが、依然として学習時間は少ないことがわかる。また、読書については55%程度の者が全くしていない状況で、全国より20%多い。
○生活習慣においては、上記のTVやビデオの視聴時間の長さや、毎日朝食を食べる割合の減少から、まだまだ課題がみられる。基本的な生活習慣を確立させるとともに、より一層の家庭学習への取り組みの充実が求められる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 学力向上に関する校内組織の充実と職員会議や教科部会等の定期的な実施
 - ・校務分掌における教職員で構成する委員会に学力向上推進委員会を組織し、学力向上に係る各種取り組みを提案していく。(校長・教頭・教務主任・各学年主任)
 - ・校内研修会を開き、今年度の調査結果の分析を共有し、本校の現状と課題、個々の対策を考える。また、国語や数学以外における教科等においても、今後の学習に生かすための手立てを考える。
 - ・教科部会にて、思考力や判断力・表現力等を育成するための「書く」活動の具体的な方策を検討する。また、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るための授業改善や工夫のポイントについて検討する。
 - ・学年会議を通して、学年の取組について話し合う。
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・基礎学力向上週間の実施(国語科) 全校生徒を対象に、国語科基礎学力(漢字の読み書き等)の実態テストを行う。その後一週間朝自習の時間を国語の基礎基本の内容を中心に学習する。再度実態テストを行うことで、その成果を見る。(数学科は1学期に終了)
 - ・国語・数学の過去問題、を生徒分印刷し、特に3月を中心に練習問題に取り組む。
 - ・期末考査前一週間は、放課後教室を開き、期末考査の予想問題や基礎基本の補充学習等に取り組む。
 - ・生徒会活動の一環として、朝自習コンクールを実施する。
- ◎ 過去問題・アシストシート、活用力を高めるワーク等の活用
 - ・1学年では、単元末に活用ワークを位置付け、活用する。
 - ・3学期に朝自習において、2学年を対象に全国学力テの過去問題を実施する。
 - ・長期休業日に2学年を対象に、アシストシートを冊子にして宿題として実施する。など
- ◎ 「書く」ことを習慣化
 - ・学習のめあて、まとめをノートに記述する。また、「まとめ」では、自分の気づきや感想・意見等を表現できるようなまとめをさせる。
 - ・各教科にとどまらず、道徳や特別活動の時間に「書く」活動を積極的に位置づけるとともに、自己の意見等を発表したり、説

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)
 - ・家庭学習強化月間の設定 1、2学年を対象として2月を指定し、家庭学習充実のための取り組みを行う。自学を中心とした取り組みのほか、各教科から学習課題を出すなどして、ノート1日1ページ(合計1か月間で30ページ)の学習を目指す。その際に、家庭学習チャレンジハンドブックを活用させる。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り ・学校ホームページ